

# 教宣 せぶん

## 樋口さん、お元気ですか？

日動社最後の社長、樋口さんはいま何をしているのでしょうか？ 東海社との合併が決まり、イコールパートナーとして両社長が固く握手をしたシーンが脳裏に焼きついています。東海社との合併に判を押した樋口さんは、その後新会社の会長に就任しました。また、新会社の役員のほぼ半数が日動社の役員で占められました。ところが数カ月後、私たちが気づかない間に役員改選が行われ、瞬く間に樋口さんをはじめとした旧日動出身の役員は会社からいなくなりました。その短い間に何があったかはわかりませんが、樋口さんはその後の新会社の動向をどう見ているのでしょうか？ 新会社の現状を見た時、樋口さんの胸にどんな思いが去来するのでしょうか？

樋口さんは合併新会社の創立記念日は10月1日ではなく、旧東海社の創立記念日である8月1日だという事実をご存知だったのでしょうか？ 樋口さんが会社を去って、「契約係社員制度の発展的解消」が通知されました。「月掛け」もなくなります。合併から2年も経たないうちに日動社の特徴とされたものはすべて消えていこうとしています。そして、数年後には「抜本改革」と称する大規模な業務改革が行われ、人手をかけないシステムが稼働されようとしています。削減される対象者は当然、旧日動出身者が多いことでしょう。このまま東海経営の思惑通りにすすめば、「抜本改革」の後には旧日動の痕跡は跡形もなく消えてしまいます。樋口さんが合併に調印した際に、思い描いた新会社のイメージはこんなものだったのでしょうか？

会社を去った後も、樋口さんが新会社の動向を気に留め、旧日動出身の従業員の現状や行く末に、何もできないながらも、胸を痛めているというなら、精神的に多少なりとも救われます。しかし、私たちからしてみれば桁が違う役員退職金を手にし、「あとは野となれ、山となれ」とでも思っているとしたら、「もらった退職金を旧日動社員に寄付をしろ」と言い放ちたい気分です。おそらく狡猾な東海経営は、新会社設立に多大な功績を挙げ、良質な資産を新会社に献上し、その後日動色の一掃におとなしく(?)従った功労者に、莫大な功労金を支払ったのではないのでしょうか。さすがに、その功労金に目がくらんだとは

思いませんが、組織のトップに立つ者には常に甘い誘惑がついて回ると言われています。一般論ですが、組織のトップが下々のことを考えず、「私利私欲」に走った瞬間、その組織はアッという間に崩壊してしまうでしょう。

狡猾な東海経営に、怯まず真正面から立ち向かっている組織の一員としては、「合併の断を下した旧組織のトップが、もっと先見の明があれば、こんなことにはならなかったものを」と思わずにはいられません。もし「あとは野となれ、山となれ」などと思っているとしたら、樋口さんの『人相』はきっと変わっているでしょう。